

事例の概要

「泥んこ爆弾作ろう！」とA児が伝えると、B児は「いいね～やろう！」とスコップで砂を掘り始める。A児は掘りながらB児に「水持ってきて。」と声を掛ける。以前の遊びの経験からA児とB児はイメージを共有できているようだ。この日から仲間になったC児、D児、E児は「分かった。」と言い、キャップに穴を開けたペットボトルの水鉄砲に水を汲んできて少しずつ入れるが、すぐに水が引いてしまい、なかなか水が溜まらなかった。

泥んこ爆弾作ろうよ！
まずは、水を入れて・・・

経験を生かす→以前やって楽しかった遊び

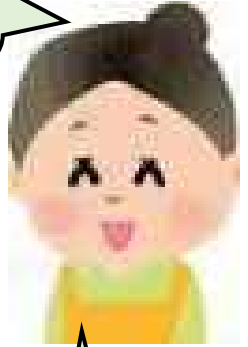
あれ？ペットボトルの水鉄砲では、水がなかなか溜まらない・・・ **気づき** **疑問**

何しているの？面白そうだね！この仲間で、水をたくさん溜めているんだね **共有のために**

先生も仲間に入れて！私は、何を使って水を入れようかな **刺激**

先生が使っているバケツの方が水が多く入るかも… **試す**

やってみたい！ **主体性**



バケツより大きいタライを使ってみよう！
今度は、水がすぐには消えない？？

予測 **試す**

お水がすぐに消えてしまうよ～！
どうして？？ **気づき** **疑問**

えっ！？水が消えるの？
なぜだろうね？ **共感**



水を溜めることに夢中になるところから、水が溜まらずに消えていく事象に関心をもったり、水が流れることに興味をもち、遊びが水路づくりに広がったりした。遊びに夢中になるほど、友達と言葉で考えを伝え合う姿が多くなっていた。

遊びの中で、主体的・対話的で深い学びを得られるための環境の構成や援助とは

環境の構成と援助

- ・水を溜める目的を共有できるように言葉を添えたり、場所や時間、メンバー等の環境を保障したりする。
- ・幼児の思考に応じてバケツ等の環境の提示をし、互いの考えを言葉で伝え合う仲立ちをする。
- ・教諭も仲間になって遊びを楽しみ、幼児のすることや発言を認めたり、共感したりし、幼児が「面白い！」と感じる気持ちを高める。
- ・幼児が全身で土や水に触れ、水を溜めるために道具を用いて試すなど、学んでいる姿を捉えながら、次の気づきが生まれるような動きや言葉かけで刺激する。

幼児期の学びについて、小学校と共有できるポイント

正解ではなく
過程が
面白い！

遊びの中の
幼児の思考に
目を向ける

学びが循環
している
深い学び

この遊びと
小学校の学習
とのつながり
を知る

今後に向けて

- ・確かな接続を進めるために、「遊びを通した学び」を見取る力が必要である。
- ・幼児教育施設と小学校が幼児期の学びについて共通理解するために、合同研修を（幼保小連携推進協議会等）行ったり、地域の小学校に対して保育参観の機会をつくったりしていく。
- ・小学校の教科書や発行物等を読んだり、研修に活用したりするなどして小学校の学びを知る。